

# 2016年3月期 連結業績見通し及び 中期経営方針について

## 代表取締役社長 上釜 健宏

Copyright® 2015 TDK Corporation. All rights reserved.

TDK株式会社 2015年4月

- 1 -

こんにちは。上釜でございます。本日は多数お集まりいただいて誠にありがとうございます。私のほうから、2016年3月期連結業績の見通し及び中期経営方針についてご説明申し上げます。



# 2016年3月期 連結業績見通し

Copyright® 2015 TDK Corporation. All rights reserved.

TDK株式会社 2015年4月

-2-

まず最初に、2016年3月期連結業績見通しになります。

### 2016年3月期 連結業績予想及び配当金見通し **△TDK**



(億円)		2015年3月期 通期実績	2016年3月期 業績予想	業績予想対前期比	
				増減	增減率(%)
	売上高	10,826	11,800	974	9.0%
	営業利益	725	950	225	31.0%
	営業利益率	6.7%	8.1%	+1.4pt	-
継続事業税引前利益		745	950	205	27.5%
当期純利益		494	650	156	31.6%
1株当たり利益(円)		392.78	515.92	-	-
配当金		上期:40円 下期:50円 年間:90円	上期:60円 下期:60円 年間:120円	-	-
為替	対ドルレート	109.84	115.00	-	-
替	対ユーロレート	138.88	130.00	-	-

Copyright® 2015 TDK Corporation. All rights reserved.

TDK株式会社 2015年4月

連結業績予想及び配当金の見通しについてご説明いたします。売上高は1兆1,800億円、営業利益は950億円、営業利益 率8.1パーセント、税前利益950億円、当期純利益650億円、一株当たり利益515円92銭となります。配当金は、2015年3月 期の下期配当水準から10円増配しまして、上期60円、下期60円で年間120円を予定させていただいています。今期の想 定為替レートは、対ドルレートで115円、対ユーロレートで130円になります。

### 2016年3月期 通期連結売上高増減イメージ

為替レート EURO/Yen

Copyright® 2015 TDK Corporation. All rights reserved.



130.00

-4-

TDK株式会社 2015年4月

(億円)

セグメント 区分	2015年3月期 通期実績	2016年3月期 通期予想 (対前年比)
受動部品	5,412	+7~+10%
磁気応用製品	3,692	±0%
フィルム 応用製品	1,513	+25%+α
その他	209	=
合計	10,826	11,800
為替レート \$/Yen	109.84	為替前提 115.00

つづきまして、前期通期連結売上高から今期売上高の増減見通しについて説明いたします。まず受動部品ですが高周波部品とインダクティブデバイスが好調に推移する見込みですので、7パーセントから大体10パーセント増加するだろうと見込んでおります。磁気応用製品は、HDDヘッドが若干減る見込みですが、セグメント全体では横ばいを見込んでおります。フィルム応用製品は、プラス25パーセント強増えるだろうと見込んでおります。連結として1兆1,800億円という売上を見込んでおります。

138.88

#### 2016年3月期 のポイント



セグメント	市場環境と重点施策	
受動部品 (インダクティブデバス)	ICT、車載市場向け薄膜製品、積層製品のシェア拡大	
受動部品(高周波部品)	LTE市場拡大による小型・高特性ディスクリート 製品の販売拡大(TC-SAW、BAW)	
	モジュール製品のシェア拡大	
<b>受動部品</b> (圧電材料部品)	OISビジネスの拡大(中国スマホ搭載率増)	
磁 <b>気応用製品</b> (HDD ヘッド)	PC需要減少によるHDD市場台数縮小 15/3期5.51億台 ⇒ 16/3期5.30億台(3.8%減)	
	データセンタ向け製品の拡大継続、製品ミックス改善	
フィルム応用製品 (二次電池)	モバイル機器薄型化によるポリマー電池需要の拡大継続 顧客ポートフォリオの拡大	

Copyright® 2015 TDK Corporation. All rights reserved.

TDK株式会社 2015年4月

5

2016年3月期のポイントですが、我々の言う5本の柱事業について説明いたします。まず、インダクティブデバイスですが、これはICT市場や自動車市場向けに薄膜製品と積層製品のシェアが拡大するだろうと見込んでおります。高周波部品は、主にSAW、TC-SAW、BAW等のフィルターになりますが、LTE市場の拡大と小型化・高特性化の流れの中でディスクリート製品(個品)の販売拡大が期待できると考えています。また、主要顧客向けにモジュール製品のシェア拡大も今期見込んでおります。圧電材料部品については、OISと呼ばれる手振れ防止のカメラモジュール用アクチュエーターが、中国スマホ向けに拡大していく見込みでございます。

それから磁気応用製品、特にHDDヘッドになりますが、ご存じの通り、PC市場は台数が減るといわれております。それに伴いHDD市場の台数も2015年3月期が5億5,100万台に対しまして、2016年3月期は、5億3,000万台と、2,000万台ほど減るだろうと見込んでおります。ただ、データセンタ向け製品の販売が、徐々に立ち上がってきましたので、今後は製品ミックスが良くなってくると見込んでおります。

つづきまして、フィルム応用製品、主に二次電池になりますが、モバイル機器の薄型化が進んでいますので、今後もリチウムポリマー電池の採用が加速するだろうと見込んでおります。角型のリチウムイオン電池からリチウムポリマー電池の切り替えが更に進むのではないかと見込んでおります。加えて、急速充電に対応した二次電池が拡大していくと見ております。



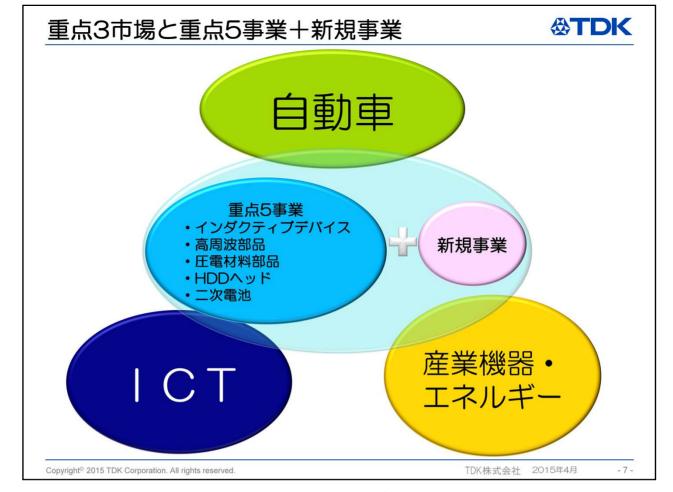
# 中期経営方針 (2016年3月期-2018年3月期)

Copyright<sup>©</sup> 2015 TDK Corporation. All rights reserved.

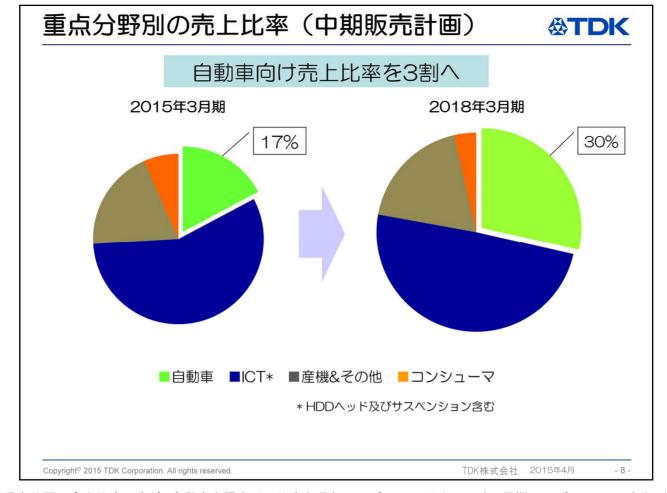
TDK株式会社 2015年4月

- 6 -

つづきまして、中期の経営方針について、ご説明させていただきます。



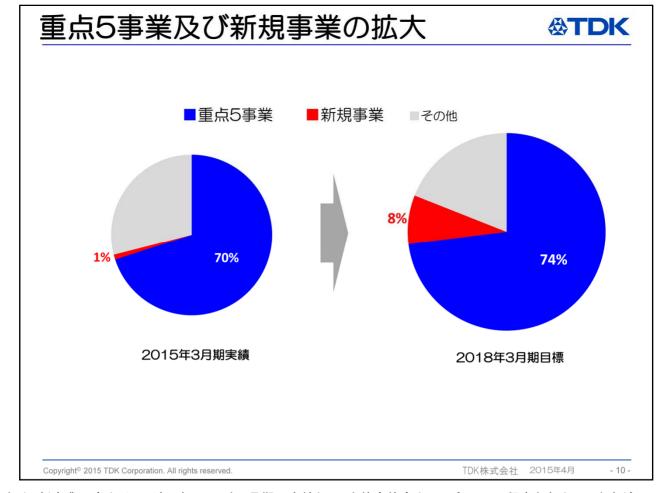
この中期は、2016年3月期から2018年3月期までの3カ年計画でございます。今までも重点3市場として、自動車、ICT、産機エネルギー、重点5事業としてインダクティブデバイス、高周波部品、圧電材料部品、HDDへッド、二次電池としてきました。当然この5事業を引き続き成長させていきますが、これらに加えて新規事業に力を入れていきたいと思っております。



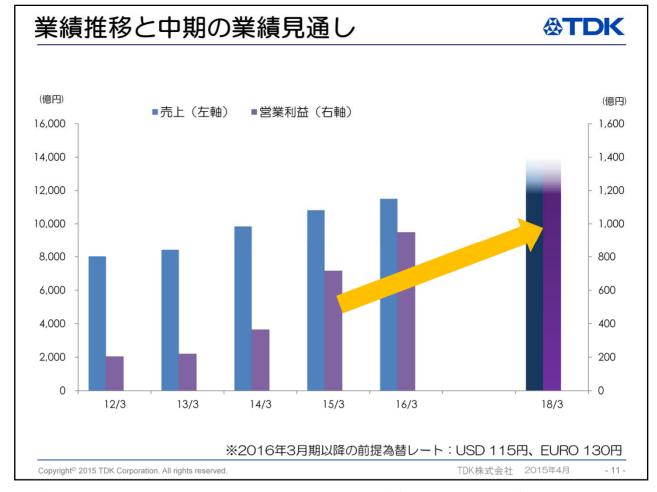
重点分野の売上比率ですが、自動車市場向けの比率を現在の17パーセントから2018年3月期に30パーセントにすることを目指していきたいと考えております。

# 

つづきまして、先ほど申し上げました成長分野における新規事業ですが、2018年3月期に売上高1,000億円以上を目指します。この円グラフを見ていただけると分かると思いますが、まず自動車、産機向けセンサー。これは、主にTMRの磁気センサー、角度センサー、それとプレッシャーセンサー、気圧センサーになります。次にエネルギーユニットですが、これは特に産業機器向けが先に来ると思いますが、自動車市場向けにも拡大させてまいります。非接触給電、それからチャージャー、DC/DCコンバーター、バッテリー等についてエネルギーユニットとしてビジネスを拡大させていきたいと考えています。次にウェアラブルですが、これは特にヘルスケアの分野に注力したいと思っています。これも非接触給電とチャージャー、あるいは当社独自のIC内蔵基板「SESUB」を使った小型モジュール、バッテリー等を拡販していきたいと考えております。薄膜部品は、当社がこれまで蓄積してきた薄膜技術を活用した応用製品になりますが、ICTや自動車といった重点市場に対して今後新製品の販売を拡大してまいります。



次は、新事業の売上イメージです。2015年3月期の実績として大体全体売上の1パーセント程度を占めていますが、2018年3月期には、全体の8パーセント程度の売上を占めるような目標を掲げております。



前回もご説明させていただきましたが、中期の業績推移のイメージでございます。1番右の棒グラフが、目標の2018年3月期の業績イメージです。グラフでは紫色のほうが営業利益になりますが、2018年3月期には、大体売上と同じ高さ、つまり営業利益率として10%を目指すイメージでご認識していただければと思います。

### モノづくり改革 (ゼロディフェクト品質)



### インダストリ4.0

センサによる監視システムネットワーク 生産工程リアルタイムコントロール クラウドで分析⇒工程フィードバック

# ゼロディフェクト の追求

源流管理の構築

#### ものづくりの革新

在庫管理の革新

エネルギー効率の革新



### 秋田新工場導入⇒全世界拠点へ展開

Copyright® 2015 TDK Corporation. All rights reserved

TDK株式会社 2015年4月

12

次はものづくり改革について説明させていただきます。先日リリースを公表いたしましたが、今後秋田地区に新工場を二つ造る計画です。投資額は250億を計画しております。今評判になっておりますインダストリ4.0の考え方をベースにゼロディフェクトの追及を併せたものづくりの改革をしていかなければならないと考えています。新しいものづくりの仕組み、システムを新工場には導入する予定で、今着々と生産ラインの設計や工程の流し方等の検討を進めております。これらの考え方は、新工場だけではなく、主力製品や新製品については既存工場にも導入していきたいと思っております。どこの国で作っても同じ品質で同じ性能の製品ができるものづくりです。これらの新しいものづくりの考えを秋田新工場に導入したら、世界すべての拠点に展開したいと考えています。

### 成長投資



今後3年間(中計期間) での総投資額

3,500~

1,300億円

2016年3月期計画

設備投資

4,000億円

R&D投資

約2,300億円

770億円

- ●秋田地区に工場新棟建設
- ●重点5事業の生産能力増強
- ●新製品、新規事業への投資

Copyright® 2015 TDK Corporation. All rights reserved.

TDK株式会社 2015年4月

次は成長投資について説明いたします。2016年3月期から2018年3月期の3年間の総投資額は、3.500億から4.000億円 を計画しています。これは、先程ものづくり改革で申し上げました秋田地区の新工場建設投資も含まれますし、重点5事業 の生産増産や合理化投資が含まれます。また、新製品や新規事業への投資も成長のために増やしていく計画です。今期 2016年3月期の計画は、1,300億円を予定しております。

研究開発投資につきましては、今後の3年間で約2,300億円を計画しています。今期2016年3月期は、770億円を予定して おります。

### 中期経営目標



## 成長投資

- ・新製品、新規事業への投資、M&A
- ・既存事業の生産能力増強

## 株主還元

- ・EPS成長を通じ安定配当、増配
- ・配当性向30%目標



	2015年3月期実績	2018年3月期目標
営業利益率	6.7%	10%以上
ROE	7.2%	10%以上

Copyright<sup>©</sup> 2015 TDK Corporation. All rights reserved.

TDK株式会社 2015年4月

1.1

最後になりますが、中期経営目標について説明いたします。先程申し上げました重点5事業の拡大、成長投資、新規事業の拡大、M&A等で成長を実現していきます。株主還元につきましても、一株当たり利益の成長を通じた安定的な配当を継続する方針です。配当性向は、今後30パーセントを目標に設定しております。今期は30パーセントには足りませんが、成長投資に向けさせていただきたいと思っております。2018年3月期には、営業利益率10パーセント以上、ROE10パーセント以上を目標として事業を進めていきたいと考えております。私からは以上でございます。ありがとうございます。

#### 将来に関する記述についての注意事項



この資料には、当社または当社グループ(以下、TDKグループといいます。)に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

又、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。

Copyright® 2015 TDK Corporation. All rights reserved.

TDK株式会社 2015年4月

- 15 -



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載をいたします。 http://www.tdk.co.jp/ir/ir\_events/conference/2014/4q\_1.htm